

しゃくなげ

学校の教育目標 志をもち 仲間とともに創りだす生徒



人権推進校指定をチャンスに

校長 福井敏彦

今年度七宗中が人権推進校の交付を受けました。人権集会の中で交付式を実施、人権集会を節目に人権意識の向上をめざします。

人権推進校指定をチャンスに

「花には適切な水・日当たりが必要です。花を育てることと同様、人に対しても、相手を思う心（水）と尊重しあう温かい環境（日光）を大切にして取り組んでくださいね。」岐阜地方法務局美濃加茂支局長若林様から生徒会長藤井佑佳さんに指定書が手渡されました。

また、七宗町人権擁護委員堀部さんから「可茂地区小中学校57校の中から選ばれました。57年に一度の機会、人権意識を高めるチャンスにしてください。」とのお話をいただきました。その言葉通り、その後の意見交流では課題を自分事としてとらえて交流することができました。

【参観者の感想より】全員が参加し、活発な意見交換がなされていて感心しました。／活発に意見交換をしている姿を見ているだけで涙が出そうになりました。／座っている姿勢・礼・話を聞いた後の反応、返事に一体感がありました。／素直なもの見方・考え方を交流する姿がよかったです。

普段以上に緊張感のある集会となりましたが、そんな中でも一人一人が課題に正対し意欲的に交流できていたことを認めていただき、うれしく感じました。

縦割りグループで原案づくり

「七宗中の人権宣言案をつくろう」というテーマで意見交流しました。素晴らしかったのは、どの縦割りグループも原案が作成できたことです。七宗中学校のよさとして縦割り活動を大切にしてきましたが「仲がよい」という土台のもと「学年を超えて高まりあおう」とする姿がみられました。話し合いをリードした3年生、自分の意見をきちんと話そうとした1・2年生、素晴らしかったです。

相手の考えを理解しようとする

「一人一人価値観が違うと難しいよね。」Aさんがグループの話し合いの中でつぶやきました。周りの子たちは、その言葉をどうとらえ、どうつないでよいのかわからなかったのかもしれませんが。その後しばらく沈黙がありました。

そこで周りの子たちに聞いてみました。「Aさんが言ったことってたとえばどういうことかな?」「あの子にとって気になる姿や言葉が、別の子にとっては何でもないことがあるということかな?」周りの子が「そういうことか」と反応する姿に、Aさんがちょっと明るい表情になったのが印象的でした。

相手の考えをすべて理解することはきっとできません。育ってきた環境・経験が違うからです。「相手の気持ちを考えて行動しよう」と安易に使ってしまいがちですが「難しいこと」というAさんの気付きを大切にしながら、少しでも相手の考えを理解しようとするのが大切だなと感じました。